

SAT だより

SKI ASSOCIATION OF TOKYO

No.44

発行 (財)東京都スキー連盟

〒102-0083 千代田区麹町4.5

第6麹町ビル551号

TEL.(3262)2491(代)

発行日 H11. 7. 20発行

編集 SAT編集委員会

印刷 水戸屋紙工株式会社

***** 99シーズン終了に当たって *****



代表副会長 米沢 純夫

東京都スキー連盟99シーズンは、雪不足のため、フリースタイル部で場所・会期の変更などがありましたが、役員・専門委員の熱い努力と加盟団体みなさんのご協力の下に、予定された行事をすべて終えることができました。ありがとうございました。

今年の特徴の一つに、準指導員検定の合格率が大幅にアップしたことがあげられます。合格者が多かったため、来年の準指受検者がぐっと減るのではないかと心配する向きもありますが、指導員が増えることは、その周りにいる人の関心がスキーに向けられることにもなるというように前向きに考えて、スキー人口の増大に結びつくよう、努力していきたいと考えております。なお各加盟団体でも、指導者層の拡大に向けて、いっそうのご努力をお願いする次第です。

都連代表の各行事への出席は、3人の副会長が分担していきまして、私は準指検定の他、クラブ対抗競技会にも出席しました。そして私よりも年輩の選手が出場しているのを見て、「よし、来年は選手として出場するか。しかしあの堅いバーンでは、3本目くらいでコースアウトだろうなあ」なんてことを考えながら、各選手の奮闘ぶりを見守っていました。気がかりだったのは出場選手の数。しかし昨年とほぼ同じレベルということを知り、ホッとしました。なお幾つかの雪上行事では総務本部専門委員が庶務担当として、安全対策部からはパトロールが、縁の下の力持ち的な仕事をしていることをこの機会に紹介しておきます。

またテレビでしか見たことのないフリースタイルの大会の現場を、スキーヤーとして初めて見るのが出来て深い感銘を受けました。特に音楽に合わせて演技するアクロ競技は、私が音楽に多少関係していることもあって特に興味深く観戦することが出来ました。明治時代から始まった我が国の音楽の近代化は、西洋音楽を基調にして伝統音楽を切り捨てるという方針で進められてきたため、私達は生活の中で「踊る」という習慣を失ってしまっています。どの民族も、音楽と踊りが切り離せないものとして人々の生活の中に自然に存在していますが、この国ではそうではなくなったのです。だから私たちは、踊りを「習う」という形でしか覚えられない。ところがヨーロッパの人は、踊りの音楽が鳴ると、体が自然にそのリズムに反応します。そういう点で大きなハンデを背負っているわけですが、それを克服して田中由香子さんが今年の世界選手権に4位に入賞。心からの祝福を送ります。

都連は現在、来年度予算の編成に着手していますが、極めて深刻な状況にあります。新たな知恵を出し合って、この危機を克服していきたいと考えております。

***** シーズン終了にあたって *****



専務理事 井上 衛

会員の皆さん今日は。

今シーズンは当初は降雪が少なく心配されましたがその後は降雪が多く、積雪十分で首尾よく行事が終了し、一安心していることと存じます。

都連執行部は就任して初めてのシーズンなので何かと心配りをしながら、前執行部の計画を実行してまいりました。延期した行事はありましたが、予定の行事がつつがなく全部遂行できました。これは皆様のご協力の賜と深く感謝しております。

細部については本部の本部長、部長からメッセージがあると思いますが、主な成果を申し上げますと

1. 総務本部は表面にはでないが各部を後方支援 2. 教育本部では、都連始まって以来準指導員が476名誕生 3. 競技本部では団体の女子回転で、切久保選手が優勝、男子では森、大盛、佐藤選手の活躍 4. 安全対策部では、全国スキーパトロール技術競技大会でAチームは種目別で(三角布)準優勝。Bチーム女子総合2位 5. フリースタイル部では田中選手が世界選手権大会で入賞等がありました。これらは本人の努力はもちろん、都連の組織の存在を示しているとも言えるでしょう。勝負の世界では勿論結果は大事ですが、都連のような集合組織では、組織全体が一丸となって物事に体当たりして行くことも同等に大事なことだと思います。

都連の経済状態は決して良好な状態ではありません。会員の皆さんが全員満足して頂けるという事は非常に難しい事です。しかし、執行部はそれが出来るよう堪え難きに堪え、忍びがたきを忍びながら行事を執行してまいりました。シーズンが終わり安堵しております。今シーズンの反省を生かし、来シーズンに向かって頑張ります。

***** 総務本部報告 *****



総務本部長 杉崎 寿三男

昨年10月の新執行部誕生から、半年以上が過ぎました。この間に多くの雪上行事が入りましたが会員皆様方のご協力により無事に終了致しました。

この時期は来年度の行事計画、予算編成に取り組み各本部との調整をしている最中です。

今や我国のスキー界は景気の低迷によりたいへん厳しい時代を迎えました。都連もスキーヤーの減少が直接の要因と思われる大幅な収入減が目立って来ております。今年7月が年度末となるための目下清算中であり詳しく申し上げられませんが、今後は旧来の方法では無理となり、思い切った行事内容の変更及びそれに伴う予算組みが必要となることは明らかであります。

さて総務本部は前執行部より多くの課題を引き継ぎました。あまりの難題に戸惑いがありましたが多くの方々への応援やアドバイスを御得ようやく底が見えだし、残るは1. 規約の一部改正の件、2. 97調査報告のまとめの件が大きな課題となりました。

この件も去る5月23日の臨時評議会にて審議され、規約については再度検討、調整を計ることで継続審議となりました。調査報告については調査委員より報告提出された膨大な資料を理事会に於いても幾度となく検討、審議されました。その結果を上記の評議員会に報告書と理事会意見書として添付し提案したところ承認を得ることとなりました。長きに渡ってのごたごたした一件は多少の後始末はあるものの終止符がうたれた訳であります。

都連はこの件を教訓として本来の健全なるスポーツ団体として近々に来る21世紀に向けての躍動を期待したいものです。以上をもって中間報告と致します。

後期の目標としては、事務局合理化のひとつとしてOAの活用があり、総力をあげて検討中です。新年度からの会員各自の登録と同時に管理の充実と会計処理の連動に重きを置き目下準備中です。期待して下さい。

※※※※※※※ 11年度 シーズンの終了にあたって ※※※※※※※



教育本部長 井上 恵司

長い都連の運営を先達が行ってきましてバトンタッチされたわけであるが、良いものは継承し、それをマニュアル化にして「これはなあ？」と思われるものは思い切って捨てていこうというのが私の持論である。せめて教育本部内だけでも“決定したこと”は直ぐ実行し、理事から専門委員まで一体となる方向に進んで行く、との方針で一年間を進めてきた。

まず、検定関係に関しては、従来に増して検定員には厳しい態度で臨むよう要請し、お陰で大量の準指合格者が誕生した。これは技術的には四年間（教程改訂後）研鑽した賜物でもあり、OA化に伴う理論検定、及びカービングスキの普及率のためとも判断して居ります。

指導員研修会については、教わる側の多様性を考え、思い切って

1. ベテラン組 2. 資格維持組（従来の研修タイプ） 3. 技術志向組（クラブリーダー育成） そうして、レーサに見られる最新テクニックを研修する意味での 4. ポール班に分けて研修してみた。

各研修後の御意見を聞いてみると“目新しい”という感じからか反対意見はなかった。併し今後思考錯誤を繰り返してより良いものに行き度いと思えます。

技術選を中心とした選手強化については、今年度は力を入れることが出来なかった。来年度からも益々予算面で厳しい情勢となる。

併し、雪なし県の宿命かもしれないが、最終的には各自の努力で研鑽する、という本筋に返ることになるのか？

全日本からの通達もあり、準指合格者の点数発表も不可となり、研修会規定も更に明確にして新年度を迎え度いと思えます。新教程、検定種目の変更等も何れ詳細が発表されると思えます。

各クラブ、各会員からの御意見が多く出てきて居りますが、なるべく早く対応したいと思っておりますが匿名だけは勘弁して貰いたい。折角の有意義な質問でも役に立たなくなります。シーズンを振り返って反省の意味も込めて筆をとりました。

※※※※※※※ シーズン終了にあたり ※※※※※※※



競技本部長 尾山 正人

競技本部理事3名でスタートいたしました。

シーズンを通して専門委員、関係各位の協力を得ながら無事終了いたしました。

今シーズンの結果をふまえていくつかの検討に入っております。

一つ二つあげますと、コンピューター管理におけるエントリーシステム、ドロウシステムの早期本稼働に向けて作業中です。東京都公認大会における各組別についても

著しくポイント差が出ないように考えております。

本年度の冬季国民体育大会においてアルペン女子B組で優勝者を出すなど来年に向けての希望も出てきております。今シーズンは各競技大会の参加数が減少してきております。各大会の内容を調べ参加基準等を考え数多くの選手が参加できるよう計画しております。最後に、加盟団体、関係各位、選手、大変ありがとうございました。

***** フリースタイルスキー報告 *****

今シーズンも各種イベントと共に慌ただしく行き過ぎていった。

有難くない暖冬で2件の延期があって、選手及び派遣役員に迷惑を掛けてしまった。このような異常な条件でもスキー場関係者及び協賛社のご協力で、何とか乗り切ることが出来た。残るは7月17日からのウォータージャンプ教室だけとなった。

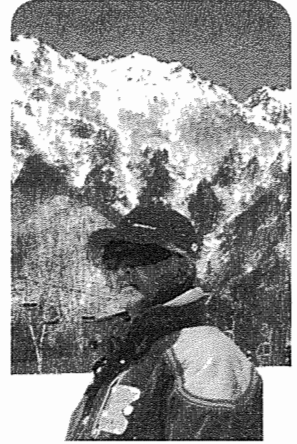
F.S部門は予算切替時を跨ぐ行事があり、毎年慌ただしく遂行しております。夏期に行うウォータージャンプは、夏休みに家族連れで気軽に見物出来、目近で見る迫力はまるでサーカスのようなので、是非避暑がてらお出かけ下さい。

さて過ぎた冬期シーズンを振り返ってみると朗報もあった。都連の得意種目アクロ競技で'97年F.S世界選手権(飯綱)に引続き、田中由香子選手が再びマイリンゲン(スイス)のF.S世界選手権で4位に入賞という偉業を達成した。これは特筆に価すると思う。

現在都連所属でナショナルチームのメンバーの中で世界に通用するのは、残念ながら田中由香子選手だけだ。同選手は10年余ワールド・カップを転戦して来たが今回の大会での成績を有終の美として引退した。今後は筑波大々学院でコーチ学を習得し後輩を育成することになった。今迄のキャリアを生かして今後の田中由香子さんに期待したい。

モーグル種目は根強い人気で都連行事へも各県連から申込みがあり、非常な盛り上がりを見せた。

各種目に新しい力、新しい芽が伸びて来た傾向が現れて来たことは誠に嬉しいことである。



フリースタイルスキー部長
渡邊 宏



第3回都アクロ競技会
優勝 今井ほのよ(14才) (渡邊 宏 撮影)



藤巻奈巳選手



(下2枚 川口裕巳氏 撮影)

安全対策部行事を省みて



安全対策部長 中澤 義昭

平成11年度正準指導員検定受検者を対象とした、救急法を指導者要請講習会の中で理論、実技ともに実施致しました。出来るならばもう2時間程、時間を配分して頂けると有難たいのですが現状ではむずかしい。

公認パトロール受検者養成講習会は東京、千葉、埼玉各県連より18名の参加がありました。安全対策本部専門委員研修会は同日程同会場で研修しました。予算の関係が許すなら別日程で行いたい。近年、加盟団体の行事に於いて事故が多くなって来ております。その件で各加盟団体の安全対策担当者及び公認パトロールを対象に安全対策担当者講習会を開催し傷害防止対策等について勉強を致しました。公認パトロール受検者の為に今回初めて日本赤十字社救急法講習会と検定会を実施致しました。次年も実施したいと思っております。受検者以外の方々も受講出来ますので自分の為、クラブの為に是非、多くの方々に参加して頂きたいと思っております。安対部より行事の派遣に20件程実施致しましたが基本的な活動内容を再検討して統一する。さらに派遣マニュアルの再検討をして事故予防対策と啓蒙活動を明示して必要な行事にはドクターパトロールを同行させると言う具体策も考えております。

今シーズン在京での指導員研修会理論会場に於いて、スキーマの傷害防止と安全対策の意識の向上を図る為に安全対策について理論講習をさせて頂きました。実施することが出来たことを教育本部の理事並びに関係各位に感謝致しております。

安全対策部は加盟団体並びに都連に於いて限らない傷害防止対策を図ると共にスキー場で頻発する人身事故の対応策を検討して参りたいと思っております。

第14回全国パトロール技術競技大会は3月27日～28日宮城県鳴子町オニコウベスキー場に於いて開催されました。合宿の成果がありましてAチーム(男子)が種目別で第二位、Bチーム(女子)が女子総合で第二位になりました。

最後に今シーズンのスキーマ、ボーダーの死亡事故を全国スキー安全対策協議会でまとめた資料がありますので報告致します。尚、都連加盟団体よりの傷害報告については現在まとめております。次の機会にご案内いたします。



平成10年度スキーシーズンにおける死亡事故

全国スキー安全対策協議会
調査委員会委員 中澤 義昭

99年4月22日に全国スキー安全対策協議調査委員会が開催されました。今シーズンの死亡事故を次のとおり報告いたします。

○19件(スキーヤー11人 ボーダー8人)

管内別	北海道	東北		新潟			九州	中部	合計
県別		福島	岩手	山形	新潟	長野	佐賀	石川	
スキーヤー	1	1	1	2		5		1	11
ボーダー	2			1	3	1	1		8
計	3	1	1	3	3	6	1	1	19

※4月20日現在の調査では16件でしたが、その後の調査で3件増えて19件になりました。

○(スキーヤー)

No.	性別年齢		事故状況	技術	死亡原因	備考
	男	女				
1		51	コース外立木に衝突		脳挫傷	当日死亡
4	45		ジャンプ失敗転倒		首の骨を骨折	当日死亡
5	54		コースわきの立木に衝突		わき腹を強打	当日死亡
6		45	谷間へ転落	スキー2級	窒息死	当日死亡
8	28		コースわきの立木に衝突		頭を強打	当日死亡
10	58		コース外の岩に衝突		頭の骨を骨折	当日死亡
11	17		防風ネットの支柱に激突		頭を強打	当日死亡
12	49		急斜面で転倒	スキー歴30年	脳挫傷	当日死亡
15		54	コースわきの立木に衝突		頭を強打	当日死亡

※No.数字は事故概要の整理番号です。

スキーヤーの事故者の平均年齢は44.6歳で、最近の死亡事故は中高年の方が多い。その原因は衝突によるものが多く、又、カービングスキーによる事故も見逃せない。それから特に3月21日は気象状況が悪く5件の死亡事故が発生した。

○(ボーダー)

No.	性別年齢		事故状況	技術	死亡原因	備考
	男	女				
2	22		コースわきの立木に衝突		首・頭の骨を骨折	当日死亡
3	32		防風ネットの杭に激突		頭を強打	当日死亡
7	34		がけ下へ転落		脳挫傷	当日死亡
9	20		雪崩に巻き込まれる		脳挫傷	当日死亡
13		16	転倒して胸を強打	初心者	脳挫傷	当日死亡
14	25		転倒して頭を強打	ボード歴3年	脳挫傷・頭蓋骨骨折	翌日死亡
16	36		砂防ダム内へ転落			翌日死亡

※No.数字は事故概要の整理番号です。

スノーボーダーの事故死亡者の平均年齢は26.4歳で自己転倒が多い。当初のアウトエッジの事故から、コース外や雪崩発生事故が最近の特徴であります。又、教室に入る人が多くなり、技術レベルが向上してきた反面マナーの点に問題があります。



先シーズンは日本経済の混乱による景気の低迷や一般スキーヤーのニーズ・志向の変化、を中心としてスキー人口の減少が見られた。スキー業界特にスキー用品の生産・販売の部門は大きく後退しスキー場経営・宿泊等々スキー業界に大きな影を落としている。SAJの内部に於いてもそれに付随した様々なマイナス要因の現象が発生している。来シーズン以降のSAJの事業計画や組織運営に関しては、そのマイナス要因を十二分に認識しプラス方向に転ずる対応策が求められる。必然的にその筆頭に財源の減少に伴う事業計画予算の縮小と事業内容のスリム化が挙げられるが、それ以上に事業内容の徹底した分析と反省に基づいた新たな発想による立案と施策が必要である。

次年度に関しては現時点でも立案・計画案の他、その取扱い方(考え方)については多数ありますが、その中の幾つかを採り挙げてお知らせ致します。

1. SAJ会員登録のデータベース化に伴う会員登録の方式の変更。資格者登録は次年度に実施する予定ですが、築城的に処理を進めて行く予定。現状は11万余名の会員を一挙に新方式にせいりをするために、作業スタッフは大変な労力を強いられております。急遽スタッフを増員し、各都道府県からの指摘箇所の処理を含めて6月末をめどに終了するよう鋭意作業中。例えば所属クラブ、氏名等はアイエオ順に検索できる等、フロッピーにして各都道府県に配布する。
2. SAJスノーリフト会員(ファン又はサポータークラブ)制度の発足、会員募集開始。対象は原則として、所属団体等に入って組織に拘束されるのを嫌う一般のスキーヤー。特典はSAJのイベント情報の提供、旅館・航空運賃等各種割引、VISAクレジットカード、賠償責任保険付き等があり、内容によってABCの3種に区分けされる。ねらいはSAJの活動を知ってもらい、スキーのファン層を拡大する。財源の確保等。
3. 日本スキー教程の追加発刊。前年度は指導実技編、安全編、オフィシャルブック99年度版が発刊されました。今年度は、①スキーのすすめ②指導実技編のビデオ③検定編④オフィシャルブック2000年度版が発刊される。教程の分冊発刊の目的は、現スキー教程とスキー指導教本の内容の重複箇所の整理。スキーヤーのニーズ・志向の変化やスキー用具の機能の変化を明確に認識配慮して、スキーの指導活動の効果を高める為の情報提供等が挙げられる。①はスキーへの導入をねらいとし、主として一般スキーヤーを対象としている。②は、次年度に検定種目の変更が決定されているので変更内容の紹介が記される。③はSAJ教育本部メモに替わる資料で指導員研修会テーマ、各都道府県連盟の行事計画、公認スキー学校のバジテスト実施表などが組み込まれ指導者のハンドブック的な内容になる。10月上旬に発刊の予定。
4. 基礎スキー検定内容の変更。変更対象は級別テストが中心で、それに準じてプライズテスト、ジュニアテスト、指導員検定、準指導員検定も検討されるが、変更の細目に関してはスキーの普及対策の根幹をなす重要な事なので、8月下旬の教育本部専門委員会議で慎重審議した上で秋に発表する予定。それに関連して級別テストのバッチのデザインも変更する方針であるが、各加盟団体、所属団体、スキー学校の手持ちのバッチは新規のものと同無償交換するとし、後日その処置を加盟団体宛に通知をする予定。

検定内容変更の趣旨は①用具の機能変化と検定種目の不一致②一般スキーヤーのニーズ・志向の変化や指導内容と検定種目の不一致等についてスキー学校・スキークラブの講習の現場からの声が多い。

第16回インタースキー

第16回インタースキーはノルウェー・バイトストーンスキー場にて、平成11年4月10日～17日の期間、世界34カ国の代表団・視察団が参加した。世界の指導者が一堂に会する大会としては運営スタッフを含めて総勢2800名となる史上最大規模のものとなった。日本代表団は(SAJ 26名・SIA 15名) 41名であり、会議・レクチュア・技術発表・ワークショップ等を手分けしてそれぞれが担当した。従来のインタースキー会場と異なりノルディックスキーの盛んな国らしい、アルペン的な地形ではなく、ならだかな丘が連なるのどかな環境の中で開催された。

〔内容と成果〕

○インタースキーのテーマ「SNOWSPORT IN CHENGE」

- (1) 最初に会議場でレクチュアがあり、雪上の演技ではプレゼンテーションに引き続きショーが行われた。各国とも、まさにショー的な展開が多く見られ、日本のように従来のナショナルデモ又は技術比較として披露している国と、音楽に合わせてリズムカルに楽しい演技による雰囲気作りを前面に出している国との差異が見られた。今後の指針としては、どの方向をめざすのか?野沢の大会を一つの転機にした様変わりを感じた。
- (2) 雪上の演技では、今までにない画期的な状況が展開された。多くの国のチーム構成は、アルペンスキー(カービングスキー・ショートスキー)、テレマックススキー(カービングもあり)、スノーボード、スノーバイク、身障者のスキー等の混成でまとめられ、同じ斜面で、同じスピードで、同じラインで音楽のリズムに合わせて、同じテクニックで滑走している状況は見事であり、まさに「スノースポーツ・イン・チェンジ」のテーマを目の当たりに見せつけられた感があった。
- (3) 日本にテーマは「スキディング・アンド・カービング」である、2つの要素を同格としてスキディング重要性和カービングスキーへの対応を演技の中で主張し評価されていた。ワークショップの中でもデモが大変勉強していたので、十分に理解されリクエストも数多くあり、現場では各国との交流ができ成果があった。尚、IVSIのテーマに「50才以上のスキーヤーをいかに指導するか」があり世界的な課題として取り上げられている点で日本の現状と同様に感ぜられた。

2000年度 全日本スキー連盟教育本部行事カレンダー (案)

行 事 名	期 日	会 場	
		年月日(曜日)	月日(曜日)
中央研修会	11. 11. 25 (木) ~ 11. 28 (日)	長野	車山
ブロックデモ合宿	11. 11. 25 (木) ~ 11. 28 (日)	長野	車山
主任教師研修会	11. 11. 28 (日) ~ 11. 30 (火)	長野	車山
スキー大学	12. 2. 10 (木) ~ 2. 13 (日)	北海道	朝里川
スキー大学	12. 2. 17 (木) ~ 2. 20 (日)	福島	アルツ磐梯
生涯スポーツスキー指導者講習会	12. 1. 20 (木) ~ 1. 23 (日)	岐阜	飛騨高山
学校スキー指導者講習会	12. 2. 10 (木) ~ 2. 13 (日)	岐阜	飛騨高山
指導員検定検定会	第一会場	12. 2. 24 (木) ~ 2. 27 (日)	北海道 朝里川
	第二会場	12. 2. 24 (木) ~ 2. 27 (日)	岩手 未定
	第三会場	12. 2. 24 (木) ~ 2. 27 (日)	長野 未定
	第四会場	12. 2. 24 (木) ~ 2. 27 (日)	岐阜 未定
	第五会場	12. 2. 24 (木) ~ 2. 27 (日)	鳥取 大山
A級公認検定員検定会	第一会場	12. 2. 25 (金) ~ 2. 27 (日)	北海道 朝里川
	第二会場	12. 2. 25 (金) ~ 2. 27 (日)	岩手 未定
	第三会場	12. 2. 25 (金) ~ 2. 27 (日)	長野 未定
	第四会場	12. 2. 25 (金) ~ 2. 27 (日)	岐阜 未定
	第五会場	12. 2. 25 (金) ~ 2. 27 (日)	鳥取 大山
第37回SAJスキー技術選手権大会	12. 3. 7 (火) ~ 3. 12 (日)	長野	八方
デモンストレーター選考会	12. 3. 12 (日) ~ 3. 13 (月)	長野	八方
パトロール検定会	第一会場	12. 3. 6 (月) ~ 3. 8 (水)	北海道 MLレースイ
	第二会場	12. 3. 6 (月) ~ 3. 8 (水)	福島 あだたら高原
	第三会場	12. 3. 6 (月) ~ 3. 8 (水)	岐阜 朴の木平
パトロール研修会	第一会場	12. 2. 18 (金) ~ 2. 20 (日)	北海道 ルスツ
	第二会場	12. 1. 28 (金) ~ 1. 30 (日)	北海道 ビップ
	第三会場	12. 3. 17 (金) ~ 3. 19 (日)	青森 鯨ヶ沢
	第四会場	12. 3. 24 (金) ~ 3. 26 (日)	群馬 草津
	第五会場	12. 2. 25 (金) ~ 2. 27 (日)	鳥取 大山
スキーパトロール技術競技大会	12. 3. 25 (土) ~ 3. 26 (日)	群馬	草津
全国・安全対策委員長 会議	11. 11. 6 (土)	東京	岸記念体育館
第33回 SAJ公認スキー学校アニバーサリー	12. 4. 1 (土) ~ 4. 4 (火)	北海道	ニセコヒラフ
スノーボード指導員 講習検定会(1)	12. 1. 未定 ~ 1.	北海道	朝里川
	講習検定会(2)	12. 1. 未定 ~ 1.	長野
スノーボード指導員 研修会(1)	12. 1. 未定 ~ 1.	北海道	朝里川
	研修会(2)	12. 1. 未定 ~ 1.	長野
C級教師専門科目 講習検定会(1)	12. 2. 21 (月) ~ 2. 27 (日)	北海道	札幌
	講習検定会(2)	12. 3. 13 (月) ~ 3. 19 (日)	長野
国際スキー技術選手権大会	12. 3. 未定 ~ 3.	長野	野沢
日本スキー研究委員会	12. 5. 未定 ~ 5.	長野	車山
デモンストレーター 合宿(1)	11. 11. 23 (火) ~ 11. 25 (木)	長野	八方・岩岳
	合宿(2)	12. 4. 13 (木) ~ 4. 16 (日)	群馬
専門委員 会議	11. 8. 下旬 () ~ 8. ()	長野	車山
F. I. P. S. 総会	~		
I. V. S. S. 総会	13. 3. 10 (土) ~ 3. 17 (土)	オーストラリア	サンクリストフ
I. V. S. I. 総会	~		

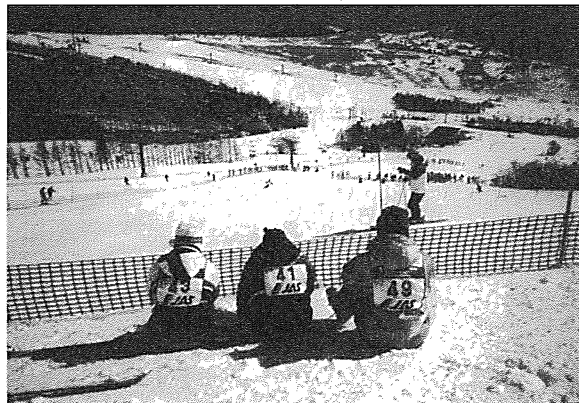
氏名	クラブ	氏名	クラブ	氏名	クラブ
第1会場 菅平		佐藤 雅 宣	ビーエス21東京	大 沢 直 丈	ウィンズ
小林 公 子	杉並区	新 海 雅 勝	練馬区	高 鳥 寛 之	港区
市 川 好 子	杉並区	野 村 尚 史	スポーツファンクション	岩 本 勇	ジーゲル
小林 みどり	ベーシック	山 本 哲 三	稲城市	白 石 新 一	ライネ
村 野 サツキ	武蔵野市	中 田 晃 敏	東京デフ	伊 藤 俊 之	豊島区
三ツ石 順 子	SAA	寺 尾 直 人	東京デフ	坂 本 久 尚	青梅市
服 部 静 香	スノータンネット	大 堀 弘	国分寺市	宮 野 克 己	青梅市
有 賀 弥 生	スノータンネット	松 井 晴 彦	八王子	渡 邊 康 雄	北区
金 沢 彩 美	トップス	猪 股 敏 夫	八王子	網 分 健	ジャボ
石 川 尚 枝	リーゼン	塩 澤 宏 幸	八王子	新 保 邦 彦	ジャボ
佐 村 政 子	白稜	高 橋 英 之	武蔵村山	木 島 弘 幸	ツヴァイテ
小 野 由 紀 子	ビーエス21東京	藤 川 洋 平	NAS	瀬 口 純	ツヴァイテ
尾 見 恵 理 子	ビーエス21東京	須 賀 茂	世田谷区	曲 沢 弘 行	千代田区
川 田 美 由 紀	スポーツファンクション	植 松 敏 彦	武蔵村山	小 澤 龍 一	ダイヤモンド
西 山 佳 子	スポーツファンクション	梅 木 栄 一	NAS	粕 谷 慎 治	調布市
石 黒 未 矢	ときわスキー	太 田 俊 幸	ホワイトブルー	石 井 晃	NTT東京
関 根 千 文	アスベン	高 橋 香 嗣 郎	NAS	肥 田 野 純	千代田区
新 井 由 起 子	白鯨	石 川 泰 佐	真果体育	西 田 修 一	熊笹
林 信 子	防衛庁	古 川 洋 一 郎	八王子	平 之 内 智 生	武蔵野市
内 藤 恭 子	防衛庁	高 田 幸 平	チームフォン	大 井 一 徳	ベーシック
太 田 美 知 子	野田市	飯 島 正	クラウン	堀 越 由 忠	ビーエス21東京
野 村 玲 子	立川市	田 中 謙 二	バグース	羽 田 周 一	アルス
込 山 祥 代	アルス	辻 雅 一	スポーツファンクション	齊 藤 学	立川市
小 玉 順 子	アルス	杉 浦 俊 秀	スポーツファンクション	朝 比 奈 秀 樹	NTT東京
石 川 ひ ろ み	日航	菅 原 篤 志	世田谷区	菅 谷 太 一	SAA
玉 田 宗 子	ベーシック	山 本 浩 三	バグース	粕 谷 義 明	ビーエス21東京
村 松 久 美 子	マンシャフト	飯 塚 健	白鯨	佐 坂 尚 博	とき
中 澤 垂 矢 子	アルム	山 田 浩 司	クラウン	有 賀 貴 広	スノータンネット
霜 田 垂 紀 子	NAS	横 田 都 志 彦	YMCA	三 谷 秀 樹	スノータンネット
岡 田 京 子	ツヴァイテ	中 村 仁	中央スキー	小 齊 聡	スノータンネット
江 藤 明 子	とき	高 木 進 太	トップス	中 村 和 広	ジャパンイーエム
上 瀬 敦 子	メイブル	後 藤 隆 巖	スポーツファンクション	吉 木 茂	トップス
岩 瀬 留 美 子	千代田区	矢 島 寅 雄	リーゼン	竹 内 秀 樹	ボールスター
芳 賀 恵	メイブル	藤 井 明 良	ネーゲル	宮 崎 慶 朗	あきる野市
林 洋 美	世田谷区	竹 森 俊 之	ハーウェル	第2会場 車山	
柴 崎 智 子	トルベ	柳 瀬 弘 二	ハーウェル	近 藤 香 緒 里	アイビーエム
佐々木 洋 子	ツヴァイテ	青 木 孝 佳	ジャスク	原 露 子	コロボックル
吉 田 敦 子	ジャボ	打 道 隆	リーゼン	東 夏 美	昭島
佐久間 成 美	ネーゲル	大 阪 哲 也	アスリート	宮 野 祐 子	青梅市
橋 本 純 子	ネーゲル	岡 部 嘉 宣	日野市	菊 池 未 帆	スラローム
古 川 祐 子	ネーブル	松 野 禎 典	ウィッツ	加 藤 修 子	シュプール
河 内 小 百 合	豊島区	石 川 真 之	バグース	松 永 ま す み	YMCA
杉 原 知 恵	ウィッツ	城 木 紀 和	ビーエス21東京	前 原 里 絵	スポーツファンクション
芳 野 典 子	港区	石 原 隆 行	港区	田 畑 洋 子	ふくろう
山 崎 加 奈 子	港区	金 久 保 稔	港区	稲 毛 真 理	武蔵野市
田 島 久 美 子	クラウン	隅 田 和 行	足立	大 野 さ つ き	野田市
照 井 裕 美 子	港区	佐 藤 祥 三	練馬区	滝 芳 美	シュプール
大 岩 華 子	シュア	神 谷 仁 巳	府中市	宇 高 美 希	通産省
高 橋 知 子	ライネ	菊 池 啓 介	ナチュラル	香 川 恵 美	アウSC
伊 藤 千 晶	石楠花	山 下 啓 介	防衛庁	杉 田 早 苗	ラッセル
古 川 由 美 子	八王子	庄 司 佳 嗣	防衛庁	川 口 敦 子	東京ガス
坂 本 千 穂	青梅市	道 下 和 弘	防衛庁	村 岡 美 紀	渋谷区
星 恵 美 子	トルベ	斎 藤 浩	府中市	桑 原 千 雅 子	フジ
伊 藤 嘉	豊島区	蛭 田 憲 治	ライネ	藤 野 映 子	風化
大 熊 紳 浩	ジーゲル	運 見 博 之	レルム	市 川 真 理	東京ガス
上飯坂 傑	クラシック	鍋 島 貴 之	国分寺市	若 井 季 子	新宿
望 月 一 三	武蔵野市	萩 野 敦	国分寺市	山 田 悦 子	アウSC

準指導員検定合格者名簿

氏名	クラブ	氏名	クラブ	氏名	クラブ
岡根 由 実	アウSC	高 瀬 博 臣	ラブオール	高 橋 千 春	マイマイ
片 桐 奈 穂	アドベンチャー	菅 原 淳 一	霞ヶ関	勝 田 愛	八王子
平 澤 久 美	スカブラ	小田切 貴 士	シュプール	石 井 高 子	ミワサス
長 妻 恵 子	川鉄東京	田 辺 恵 司	SF	北 岡 和 彦	MG武蔵野
鈴 木 麻 紀	レスポワール	石 塚 達 郎	町田市	川 添 修 修	多摩市
伊 藤 裕 子	フロイデシー	越 谷 宏	スノーファミリー	小 林 稔 彦	カバタ
小 林 万里子	ジーボア	立 川 寛 之	八王子	古 見 彰 里	クラブワン
岡 田 典 子	トラーム	上 杉 達 郎	八王子	村 上 審	ショカール
平 澤 千 代	スカブラ	渡 辺 征 徳	フレッシュ	蛭 名 賢 明	日航
深 井 英里子	NTV	鷹 野 義 昭	フレッシュ	沼 田 大 也	カオス
田 代 圭	東京ガス	田 中 正 樹	ホリディ	竹 内 飛路崇	バンブーシュート
深 澤 春 菜	ジョイフル	宮 田 郁 生	山小屋	大 賀 武 志	三鷹市
天 野 明	クリスタル	西 川 祐 介	スキークラブ・グース	塚 田 智 大	バンブーシュート
玉 山 義 夫	フリークス	中 島 英 範	世田谷区	根 橋 孝 男	ホワイトベア
吉 岡 敏 裕	スポーツユニティ	塚 本 泰 久	Eコー	上ノ内 茂	モルゲンロート
金 綱 汎 史	クリスタル	国 分 隆 雄	町田市	吉 田 幸 弘	モルゲンロート
鈴 木 茂	フジ	立 原 博	コロボックル	小座間 誠	モルゲンロート
郡 義 夫	狛江市	湖 東 律	世田谷区	遠 城 篤 志	スノーウインド
澤 崎 明 彦	奥多摩	小 菅 実	スキークラブ・グース	鈴 木 豊	日経
毒 島 大 介	アウSC	西 山 茂 樹	スキークラブ・グース	岡 部 哲 也	ヴィクトリア
高 山 芳 之	通産省	馬 詰 恵 徳	アイビーエム	栗 原 誠	ローデル
今 村 亘	通産省	小 田 秀 樹	YMCA	関 根 憲 一	国士館大学基礎
鈴 木 貴 裕	アルペン	野 平 恭 輔	サークルスリム	芦 谷 健 介	世田谷区
須 崎 政 博	奥多摩	森 文 彦	フジ	加 藤 泰 雄	東大和市
榊 原 孝 二	JR東海東京	横 塚 仁	ティンバーライン	石 野 拓 司	カバタ
山 根 英 俊	サウンズ	高 橋 敦 也	ふくろう	渡 邊 好 信	消防庁
前 野 博 明	JR東海東京	柳 大 介	アイビーエム	秋 元 嘉 幸	スノーウインド
赤 木 伸 也	スラローム	辻 口 誠 一	三鷹市	野 田 靖 宏	クリエイティブ
山 田 修	サントム	金 子 猛	バンファート	小 木 曾 康 弘	日野市
是 枝 善 男	TWS	根 本 正 実	NTV	鈴 木 健 太	クラブワン
菊 池 啓 介	サント	志 村 泰 利	フロンティア	中 田 稔	東京スキー
林 宏 和	朝日新聞	海老原 晋 吾	東京ガス	嶋 津 洋 貴	ジーボワ
涌 井 宏 治	クリスタル	近 藤 廉	シュア	海老沼 明 治	ジーボワ
鈴 木 圭 祐	目黒区	小 林 直 樹	東京ガス	田 中 伸 明	熊笹
金 子 隆 久	やまびこ	三 室 昭 佳	アドベンチャー	橋 本 勝 平	荒川区
大 北 晋 児	アウSC	江 村 水 城	マンシャフト	小 林 崇 昭	八王子
星 野 太 郎	YMCA	齊 藤 毅	ブルーベル	福 土 哲	消防庁
坂 庭 将 和	アウSC	手 塚 孝 雄	ビッグホーン	小 出 泰 紀	サークルスリム
窪 田 泰 久	ブルー	第3会場 車山		村 田 輝 彦	トルベ
安 住 修	レスポワール	磯 村 叙 子	多摩市	大 塚 英 生	日野市
渋谷 信 一	狛江市	武 浪 晶 子	新宿区	儘 田 裕 昭	稲城市
櫻 健太郎	レスポワール	谷 部 智 子	燕	藤 波 温	朝日新聞
田 嶋 哲 也	日野市	加 藤 ひさ与	美楽留	岡 本 寛	日本交通公社
松 岡 文 人	スカブラ	宮 澤 真 理	ツヴァイテ	西 修 宏	ホワイトベア
三 橋 憲 行	サンダーグ	永 瀧 純 子	YMCA	池 上 真	ショカール
千 葉 一 智	大学生協	田 島 紀 久子	ヴィクトリア	中 島 功 雄	サークルスリム
西 山 久 生	大学生協	加 藤 有 里子	MIX	小松崎 淳	プリリアント
林 昭 三	トラーム	鈴 木 純 子	多摩ニュータウン	小 山 実	京王帝都電鉄
木 村 信 之	トラーム	村 邑 真由子	クラブワン	松 田 圭 介	京王帝都電鉄
小 林 健 輔	アイビーエム	松 田 真由美	スプリ	白 岩 和 広	京王帝都電鉄
吉 田 安 里	ダイナミック	渡 辺 浩 美	燕	菅 井 博 之	スマイル
渡 辺 裕 明	タント	萩 原 由 美	プリリアント	打 矢 徳 幸	税関六華
大 嶽 浩	武蔵野市	宮 田 苗 帆	ICI	山 田 博	税関六華
松 野 太 郎	町田市	梶 塚 利 恵子	スノーウインド	杉 山 幹 直	白馬
三 浦 洋 人	燕	石 原 明日香	山と高原	矢 島 嘉 哉	税関六華
樫 村 亨	ラッセル	南 梨 恵 子	荒川区	大 場 勇 一	スカオイ
楠 岡 道 明	スチラー	小 田 薫	荒川区	荒 畑 栄 一 郎	東京スキー

準指導員検定合格者名簿

氏名	クラブ	氏名	クラブ	氏名	クラブ
藤田 充	アーツスポーツ	向井 昇	デモネージュ	田二見 儀雄	アルペールヴ
山岸 太郎	YMCA	池田 兼司	ラスカル	利根川 健二	アルティアー
並木 亜香利	カジマ	長田 稔	スポーツファ	中野 順治	アルティアー
第4会場 菅平					
山梨 洋子	イエティ	藤本 実	ネーゲル	鳥羽 功一	小平市
菅沼 恵美子	練馬区	萩原 卓弥	アスベン	寺田 浩幸	板橋区
石原 洋子	町田市	伊部 隆男	アスベン	前田 雅史	太田区役所
中沢 芳子	ブルー	高橋 章則	アスベン	小林 啓一郎	杉並区
鹿島 幸枝	世田谷区	増田 毅	ネーゲル	榎屋 浩二	都庁
河野 敦子	世田谷区	神部 利広	瑞穂町	関 剛	白銀
大西 俊江	青山	丸山 徳仁	農水省	吉野 高二	ウインズ
森山 千澄	八王子	北原 良昌	八王子	押田 敏	カモシカ
大高 典子	アスベン	山崎 正人	八王子	岡田 了	エイトマン
橋本 友紀子	八王子	高田 重也	八王子	佐藤 英二	アルティアー
勝沼 予紫美	アルティアー	小出 昌豊	八王子	和田 浩介	エイトマン
長谷川 優子	デモネージュ	小澤 豊	ヴァイス・ホ	田中 和浩	エーデル
山田 泰子	ESM	千葉 総一	八王子	大山 格	エーデル
小田部 紗子	ヒラーージュ	新井 達也	ナトゥーア	長津 英雄	エーデル
片倉 祥子	都庁	花岡 重徳	チロルシー	菊田 大介	エーデル
山田 とし子	小金井市役所	渡辺 一之	チロルシー	山田 隆史	エーデル
若槻 明子	ファイブリングズ	今井 正	チロルシー	中島 孝尋	防衛庁
小川 育子	文京区	中西 正樹	八王子	藤田 正利	アルティアー
清水 紀子	杉並区	三角 明	雪だるま	川村 洋一	千代田区
松田 香	ジャパンイー	瀬戸本 真一	杉並区	佐野 雅一	杉並区
小布施 順子	ジャパンイー	亀田 幸秀	江東区	三角 幸一	デモネージュ
荒川 美波	板橋区	池川 泰弘	足立区	松岡 貴広	ホリディ
竹内 昌枝	イエティ	松浦 義郎	文京区	飯塚 謙	杉並区
若林 澄江	イエティ	中 俊和	文京区	松崎 由典	あきる野市
飯沢 由佳	シュア	庄 司 広聖	世田谷区	五十崎 芳正	小金井市
ハッ繁 典子	アロー	長谷川 正人	ウイツ	加藤 哲也	小金井市
今野 敏子	瑞穂町	関戸 堯海	イエティ	森 杉高茂	KSC
金山 紀子	港区	中村 誠	イエティ	磯山 敏彦	TPS
濱 敏子	エイトマン	榎木 勝美	ホワイトウイ	鈴木 雅博	TPS
三井 菜摘	シール	渡辺 円蔵	杉並区	梅村 知巳	トライアング
夏目 佳子	八王子	旭 信之	羽村市	飛澤 秀之	TPS
大桃 美佐子	都庁	飯森 隆	小平市	伊木 信弥	ソニー
山崎 美香	小金井市	田花 太郎	ESM	砂田 清裕	日立本社
大石 敏子	八王子	岸 一馬	ESM	山根 秀樹	ピラーージュ
古井 千香子	TPS	井口 正也	ESM	垣 貴剛	ファイブリングズ
高野 裕美子	カモシカ	大塚 龍彦	ボールスター	佐々木 喜仁	ファイブリングズ
小田原 和代	TPS	内田 直史	ボールスター	板橋 徹徳	ソニー
今関 明子	エーデル				
近藤 典子	府中市				
石田 恵子	都庁				
浜坂 和子	チロルシー				
山梨 林司	イエティ				
春日 雅夫	チロルシー				
下河辺 元春	ホワイトリボ				
梁川 勝模	シュプール				
中島 光三	白銀				
石橋 宏治	ヒムメル				
阿久津 和美	KSC				
小笠原 哲也	足立区				
上杉 繁和	ネオ				
野々村 和平	デモネージュ				
門屋 功	イエティ				



第52回東京都スキー連盟 クラブ対抗競技会

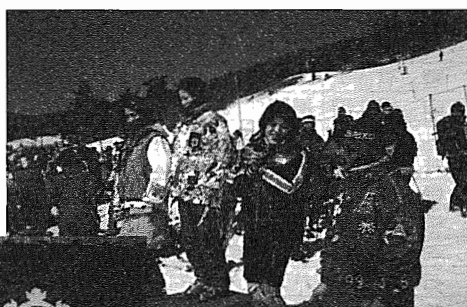
開催日：1999年3月5日(金)～7日(日)

会場：菅平高原 表太郎ゲレンデ

総合順位	団体名	成績
1	世田谷区スキー協会	86
2	チーム・フォン	27
3	東京都庁体育会スキー部	26
4	港区スキー連盟	23
5	若葉スキークラブ	22
6	特別区職員文化体育会	22
7	エスプリレーシング	20
8	K. S. C.	20
9	トルベ・コムラード	19
10	渋谷区役所スキー部	17



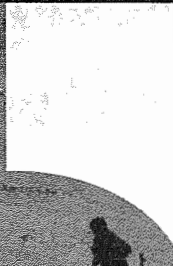
優勝に大貢献ノルディックチーム



アナタハ…



トリヤー!



グシャ…



(撮影 藤尾総務本部専門員)

第54回 国民体育大会 冬季大会 スキー競技会 東京大会

'99.1.23(土) 菅平高原大松チャンピオンコース

■男子大回転 成年A

順位	氏名	所属
1	佐藤久哉	
2	工藤聡	
3	庭野祥	若葉
4	今泉英明	
5	谷雅則	チームフォン
6	片山秀斗	
7	可児徹	マスターズ
8	戸井田慎	ホワイテーズ
9	酒井雅之	東京ガス
10	長沼豪	チームフォン
11	清水雅樹	ICI
12	松本継之	白馬
13	高坂和弘	若葉
14	浦沢豊	MIX
15	岡沢勝	チームフォン

■男子大回転 成年C

順位	氏名	所属
1	森輝行	MAXIMUM
2	原田達也	デザート
3	森浩晴	GOD
4	斉藤弘	MAXIMUM
5	伊藤裕行	MAXIMUM
6	玉内定志	チームフォン
7	平川佳正	ステューピッド
8	藤木孝紀	BtoZ
9	大平誠	三鷹市
10	満山洋一	GOD
11	宮津英光	丸沼高原
12	増田卓郎	チロル
13	山下雄樹	プリリアント
14	山口伸夫	アントン
15	名雪芳	ラッシュ

■女子大回転 成年A

順位	氏名	所属
1	得能沙織	
2	佐伯幸	グランパン
3	原田歩	グランパン
4	戸田美祝	チロル
5	加藤有里子	MIX
6	高橋いずみ	白馬
7	奥脇瑠美子	ベラーク
8	渡辺美絵	K・ドライブ

■女子大回転 成年B

順位	氏名	所属
1	樋口紀子	港区
2	切久保深雪	
3	室田陽子	UNO
4	伊藤康代	MAXIMUM
5	金子容子	ICI
6	森川順子	武蔵野市
7	栗栖登志子	チロル
8	中島圭子	エーデル
9	橋本文	ICI
10	高橋美代子	K・ドライブ
11	寺沢裕子	若葉
12	杉浦尚子	ICI
13	山田京香	ヌプリ
14	土釜身江子	ディップス
15	川崎美穂	ICI

■男子大回転 成年B

順位	氏名	所属
1	伊藤政輝	アシックス
2	関口智之	ICI
3	大盛宏幸	板橋区スキー協会
4	植松繁	ラッシュ
5	梅沢望	アート
6	江尻利雄	UNO
7	坂内友岳	豊島区
8	皆川元司	成城
9	栗田武弘	丸沼高原
10	塩島博之	ヴェトラ
11	小宮章弘	スラローム
12	川村清司	ワンダラー
13	斎藤俊	新宿
14	工藤義行	スラローム
15	嶋川憲治	日立本社

■男子大回転 男子少年

順位	氏名	所属
1	茶木隼人	高体連
2	長谷川雄一	ロックファイブ
3	藤井啓伊	高体連
4	大久保智彦	高体連
5	乙幡拓見	高体連
6	三上蔵明	高体連
7	鷲塚義浩	スノーマン
8	都築政一	高体連
9	北尉介	高体連
10	青柳剛	MIX

■女子大回転 女子少年

順位	氏名	所属
1	加藤有香	高体連
2	松本悠佳	白馬
3	佐藤あい	高体連
4	笹原絵里	高体連
5	加藤由香里	高体連
6	平川裕子	高体連
7	小澤紀子	ロックファイブ
8	前川奈々	ベラーク

第37回 東京都スキー選手権大会 (大回転)

'99.1.24 (日) 菅平高原大松チャンピオンコース

男子大回転

順位	氏名	所属
1	関口 智之	ICI
2	森野 輝之行	MAXIMUM
3	庭野 祥	若葉
4	戸井田 慎	ホワイトウィナーズ
5	可児 徹	マスターズ
6	清水 雅樹	ICI
7	伊藤 裕行	MAXIMUM
8	谷本 雅則	チームフォン
9	松本 継之	白馬
10	坂内 友岳	豊島区
11	玉内 定志	チームフォン
12	植松 繁	ラッシュ
13	斉藤 弘	MAXIMUM
14	長谷川 雄一	ロックファイブ
15	森 浩 晴	GOD

女子大回転

順位	氏名	所属
1	清澤 恵美子	中体連
2	樋口 紀子	港区
3	原田 歩	グランパン
4	加藤 有里子	MIX
5	加藤 有香	高体連
6	室田 陽子	UNO
7	松本 悠佳	白馬
8	石井 美紀	中体連
9	高橋 いずみ	白馬
10	伊藤 康代	MAXIMUM
11	橋本 文	ICI
12	橋本 容子	ICI
13	佐藤 あい	高体連
14	谷由 美子	高体連
15	戸田 美 祝	チロル

第37回 東京都スキー選手権大会 (回転)

'99.2.7 (日) 尾瀬岩鞍チャンピオンコース

男子回転

順位	氏名	所属
1	長沼 豪	チームフォン
2	坂内 友岳	豊島区
3	村山 志俊	三鷹市
4	斎藤 新	新宿
5	池田 知基	白馬
6	谷 雅則	チームフォン
7	工藤 義行	スラローム
8	森川 浩晴	GOD
9	高橋 実仁	ヌプリ
10	満山 洋一	白馬
11	小野 雄一	GOD
12	浦沢 豊	港区
13	北澤 秀之	MIX
14	酒井 雅	高体連
15		東京ガス

女子回転

順位	氏名	所属
1	伊藤 康代	MAXIMUM
2	門上 詩織	三鷹市
3	武内 千賀子	中体連
4	寺沢 裕子	若葉
5	豊村 鮎美	中体連
6	島山 裕子	スポーツマン
7	西村 香織里	ラッシュ
8	石川 亜樹	アートスポーツ
9	間瀬 陽子	ラッシュ
10	室真 真紀子	NEC府中
11	長崎 未完	都庁
12	堂内 あかね	若葉
13	井上 安喜子	特別区
14	大屋 佳子	特別区
15	板倉 由紀子	日本レーシング

車山高原の休日

ゲレンデ快適宣言'99

ゲレンデ情報やイベント紹介、詳しい施設情報はホームページでもご案内しています。

<http://shinshu.online.co.jp/resort/kurumayama/>

車山名物マンスリーオールナイト

12/31 困たいまつパレード・花火大会、オールナイト

1/16 国花火大会、オールナイト

2/13 国オールナイト

3/27 国オールナイト

●オールナイトは22:00~翌朝6:00まで

●ナイターは毎日営業22:00まで(12/12~3/28)



車山高原
SKY PARK

●お問い合わせは
信州総合開発観光株式会社
長野県茅野市ビーナスライン車山高原
☎0266-68-2626

クラブ紹介

345・スカオイスキークラブ 会長 萩原 清

東京都スキー連盟の各加盟団体の皆様、今シーズンの行事もほとんど終わりホットしている時期と思います。経済の低迷・少子化・趣味の多様化等々スキークラブ運営が大変な時期にさしかかっています。ここ数年来のカービングスキーの出現により私達中高年には朗報であります。クラブ紹介ですが、クラブ設立は昭和49年、加盟登録は昭和50年に板橋区スキー協会より独立、都連に345番目のクラブとして加盟させていただきました。発足当時クラブ員も有資格者も少なく推薦団体の板橋区スキー協会様、特に顧問として御指導を頂いた、妻川 実様、鷹松 誉雄様、阿部 昭夫様、勝沼 保男様には大変御世話になりました。クラブ名はスキーの女神スカラールからとりスカオイススキークラブと命名致しました。現在クラブ員は70名です、発足当時少なかった有資格者も指導員14名、準指導員11名、競技運営指導員3名、都連教育本部専門委員に3名(内女性1名)競技運営専門員に2名派遣しております。



クラブの特徴としてはおもに基礎スキー中心に創立時より各指導者は当然の事ながらボランティアで指導、したがって年会費も安くクラブ員同士の結婚も5組をかぞえアットホームなクラブです。

活動としては年末の初滑りから4月の春スキーまで年5回の行事を行っています。以前はオフシーズンにテニス・水上スキー等活動していましたが、今は行っていません。クラブ創立20周年も経過し記念にカナダスキーを成功させ30周年に向けてクラブ員全員張りきっています。今後ともスキーを楽しみ、スキー仲間を大切にしスキー発展のためお互い頑張りましょう。シーハイル

クラブ紹介

346・ホワイトリボンSC 理事長 富岡 美彦

ホワイトリボンスキークラブ(通商:WSC(ワスク))の名前の由来は、クラブを創立した先輩方が愛した岩岳スキー場のホワイトリボンコースから頂いています。我クラブは、お陰様で今シーズン創立30周年を迎えました。SAJ、SAT並びに紹介クラブである防衛庁スキークラブ、我々が成長していく過程で大変お世話になりましたエイトマンスキークラブを始め、我がクラブと関係をお願いしております皆様はこの場を借りまして厚く御礼を申し上げます。

現在会員は50名(内 準・指導員:15名)で、様々な職業にたずさわっている社会人で構成されています。また、60才代(現役)~20才代と大変幅広い年齢構成になっています。(最近の悩みは年齢層が年々高くなってきていることです…)

年間活動は、オフシーズン・ザウススキー場5回程度、シーズン中:会員対象キャンプ4~5回、準・指導員対象キャンプ1回、一般参加スクール1~2回、総会・納会を実施しております。活動の場所は、特定のスキー場はありません。シーズン前に今度はどのスキー場に行こうか、あそこで滑ってみたい、などと相談しながら決めています。

研修会は、基本的に12月の車山スキー場に参加しています。

活動の運営は理事会を中心に、ボランティア精神に基づき会員全体により運営されています。技術指向だけにとらわれず、スキーを通じた仲間との交流による豊かな人格形成を目的として純粋にスキーを楽しむ仲間の集まりです。

創立30周年を迎え、先シーズンはユニフォームを新調し、気持ちも新たに、内外問わず一人でも多くの、いろんなスキー仲間が増やせるようこれからも楽しく、また少しでも技術が向上するよう活動していきたいと思っています。これからもワスクを宜しくお願い致します。



白のドラマチック・リゾート
菅平高原

NIPPON DAVOS
SUGADAIRA KOGEN

ヨーロッパテイストの12のコースを持つ菅平高原は、
東京都スキー連盟の皆様のごホームゲレンデとして歴史を刻んでいます。

21世紀にむけてのパートナーシップは、さらに深く、さらに大きく広がります……。

菅平高原観光協会・菅平旅客索道協会

TEL.0268-74-2003 FAX.0268-74-2353

当クラブは名が示すように30年程前に、現在も中野区と区スキー協会が開催している『スキー教室』に参加していた中野区在住・在勤の当時の若者達を中心に結成された。スキー教室を担当していた区教育委員会・社会体育課で、係長をされていた『いっばんさん』（根本一範氏）に初代会長をおねがいののだが、今も『いっばんさん』にはクラブの顔としてまとめ役をお願いし続けている。実は『いっばんさん』は、当時すでに中野区沼袋にある真言宗豊山派の名刹・清谷寺の住職だったのだ。大きな声、まん丸の顔と体型は、人の心を掴む達人なのだ。『いっばんさん』に代わる人が、いまだに現れないのだ。会長の名言は「金は出すが、口は出さない」だからクラブの雰囲気には、自由闊達な伝統がある。スキー教室の初心者クラスから始まった我々のスキー人生も今では、指導員・準指導員32名を輩出し、120名を数える会員で活動をしている。クラブを結成してから今までクラブ活動に関わった延べ人数は、おそらく500名は下らないだろう。そして色々な出会いがあった。人生の伴侶を得たり、一生の友だちに巡り会えたり、もちろん別れもあった。そういう人々にささえられ、引き継がれて、現在の仲間たちも仲良くスキーを楽しんでいる。

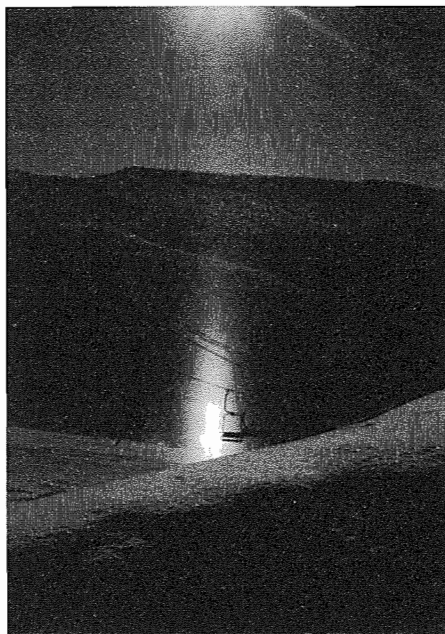
いまクラブには、スキーの上達を目標にする基礎部、ポールレッスンから大会出場を目指す競技部（愛称は『ポールスター』）、スキーツアーの付加価値を高めようとレジャー部、子供を中心にしたスキーはジュニア部、親子で参加するファミリー部（愛称はチャマズ）の5つの企画グループがある。部という名前が付いているが、会員をグループ分けしているのではない。それぞれの企画グループが、部の目的にふさわしい企画を立案し、賛同した会員が実施協力する。だから会員は、色々な志向のスキーアートを、自分のスケジュールに合わせて楽しめる訳だ。30年前若者だった仲間達も、そろそろ還暦を迎える年齢になってきた。家族会員も増えた。仲間も全国に広がった。幅広い世代と志向を繋ぐ仕掛けとして、部は機能しているのだ。30年前スポーツは、若者だけが楽しむものだった。いまスポーツは、日本の文化になった。クラブ活動も大きな視点からの改革が求められているのだ。

最近有志達が、クラブのホームページを開設しました。こちらもぜひご覧下さい。

<http://member.nifty.ne.jp/bears/NSC/index.html> 写真は今年の正月、初めての北海道キャンプ・名寄ピヤシリススキー場で見たサンピラーです。（撮影：池田真裕美）

サンピラーとは、ダイヤモンドダストが太陽の光を反射して柱状に輝く大変珍しい現象です。

（中野スキークラブ 高橋 久）



おわびと訂正

SATだよりNo. 43、P. 16、クラブ紹介に於いて、アーバンスキークラブのクラブNo. に誤りがあり以下のよう訂正し、慎んでお詫び申し上げます。

誤 345. アーバンスキークラブ

正 339. アーバンスキークラブ

編集者

委員長 川 淵 誠

編集長 土 屋 東 明

編集委員 三 瓶 一 男 海老沢 晃 本 間 毅 一 花 田 知 之

塚 本 哲 夫 藤 雄 比佐夫 蒔 野 秀 治 斉 藤 かおり 井 上 恵 美

